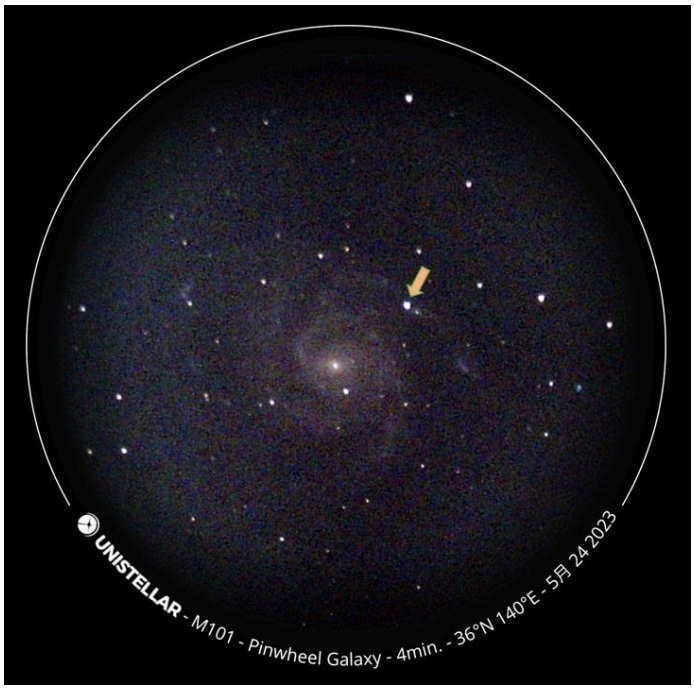
おおぐま座に超新星あらわる！



5月24日に筆者が電視望遠鏡で撮影したM101。
矢印で示した星が超新星SN2023ixf。

去る5月19日、山形県在住のアマチュア天文家板垣公一さんは、おおぐま座にあるM101銀河に超新星（符号：SN2023ixf）を発見しました。板垣さんはこれまでにも多くの超新星を発見していて、これは通算172個めです。これは世界記録です。

超新星とは、質量の大きい星（太陽の8倍以上）がその寿命を終えるとき、大爆発を起こして突然明るく輝く現象です。M101 銀河は、地球から2700 万光年（8.3Mｐｃ）かなたにあります。この写真は、船橋市で5月24日に撮影したもので、超新星は12等星として写っています。もし、この星が地球から10pc（約33光年）の場所にあったならば、マイナス18等星で輝くことになります。太陽ほどではないですが、満月の数倍の明るさです。しかし、今後は急速に輝きを失い、半年ほどで地球からは見えなくなると予想されます。

超新星の中心には、中性子星と呼ばれる密度の高い星や、場合によってはブラックホールが残ります。爆発したガスは、周囲に飛び散り「超新星残骸」と呼ばれる星雲となります。さらに時間が経つと、残骸は形を維持できなくなり拡散してしまいます。こうして星の一生は終わります。

2023年5月30日記　(解説員：田部 一志)